

(様式第1号)

平成30年5月1日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名： 医療に関する領域

科 目 名： 疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ

単 位 数： 2単位

認証申請する研修の名称： 認定介護福祉士養成研修

団体名： 一般社団法人京都府介護福祉士会

団体事務所の所在地： 〒 602-8143

京都府京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町 519 番地

京都社会福祉会館 2 階

電話： 075-801-8060

FAX： 075-801-8083

E-mail： kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者： (一社) 京都府介護福祉士会

申請責任者： 柏本 英子



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 30 年 5 月 1 日
申請団体名	一般社団法人 京都府介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 柏本 英子
申請責任者職名 申請責任者氏名	京都府介護福祉士会 研修担当 岡本 匡弘
団体住所  同 Tel・Fax メールアドレス	〒602-8143 京都府京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町 519 番地 Tel : (075)-(801)-(8060) Fax : (075)-(801)-(8083) E-mail: kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp
申請対象の領域	領域名：医療に関する領域
科目名 (単位数)	科目名：疾患・障害等がある人の生活支援・連携Ⅱ (2 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ( ) 年 認証番号 ( ) 年 認証番号 ( )
その他特記事項	

## 認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	医療に関する領域	
科目名	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ】における基礎的な医学的知識を活用して状態に応じた生活支援の実践や医療職等の他職種との連携について理解させる</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援で行う医療行為に必要な知識を理解し、状態に応じた生活支援を実践できる</li> <li>・症状や使用している薬から利用者の状態を分析できる</li> <li>・在宅療養者が使用する医療機器の取扱い上の留意点について理解し、説明できる。</li> <li>・急変時等の病態等について学び、その対応について判断できる</li> <li>・医療職等の他職種との連携について判断できる。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活支援で行う医行為や実践する際の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医行為と医行為でない行為</li> <li>・介護職員等による喀痰吸引など</li> </ul> </li> <li>○ 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点 <p>（吸引機、HOT、人工呼吸器等）</p> </li> <li>○ 生活支援における急変時対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・状態把握と観察のポイント</li> <li>・急変時の判断とその対応など <p>（意識レベルの低下、発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、麻痺）</p> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前学習①（2時間） <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省医政局長通知（医政初第0726005号）平成17年7月26日を事前送付し、介護現場で行われている医行為でない行為について、現場での対応と他職種との連携と課題についてレポート用紙A4に800字程度にまとめる。</li> </ul> </li> <li>○事前学習②（2時間） <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場で使用している医療機器の取り扱い（吸引器、HOT、人工呼吸器）についてレポート用紙A4に800字程度にまとめる。</li> </ul> </li> <li>○講義と演習①（5時間） <ul style="list-style-type: none"> <li>①②の事前課題をグループに分かれ各自発表する（演習） <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援で行う医療行為や実践する際の留意点について理解する。（講義）</li> <li>・介護職員等による喀痰吸引、経管栄養等の留意点を理解する。（講義）</li> <li>・介護現場で使用している主な医療機器の取り扱いに関する留意点について理解する。（講義）</li> <li>・介護現場で医療機器の使用時（人工呼吸器、吸引の必要な状態時など）に際し</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

<p>○ 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の使用頻度の高い薬の目的と副作用（消化器系、呼吸器系、循環器系、中枢神経系の薬）</li> <li>・ 生活支援における服薬管理</li> <li>・ アドヒアランス</li> <li>・ 誤嚥の時の対応など</li> </ul> <p>○ 主治医やかかりつけの薬剤師等との連携</p>	<p>ての意思決定についての支援について理解する。（講義）</p> <p><u>○事前学習③（2時間）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場での事例から、急変時の状態の観察と対応のポイントをレポート用紙A4に800字程度にまとめる。</li> </ul> <p><u>○講義と演習②（5時間）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ③の事前学習をグループごとに各自発表する。（演習）</li> <li>・ 心肺停止時の対応をデモンストレーションする。（演習）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活支援における急変時の対応について理解し、判断できる。（講義）</li> <li>・ 状態把握と観察のポイントについて理解する。（講義）</li> <li>・ 急変時の判断とその対応について判断することができる。 （意識レベルの低下、発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、食欲不振、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、麻痺） （講義）</li> </ul> <p><u>○事前学習④（2時間）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場での利用者の服薬に関する課題について、A4に400字程度にまとめる。</li> </ul> <p><u>○講義③（5時間）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点（講義）</li> <li>・ 日常の使用頻度の高い薬の目的と副作用について理解する。 （消化器系、呼吸器系、循環器系、中枢神経系の薬）（講義）</li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援における服薬管理（お薬手帳）から、薬剤の理解をすることができるようにする（講義）</li> <li>・介護福祉士として、利用者のアドヒアランスの向上の取り組みを理解する。（講義）</li> <li>・誤嚥の時の対応について、介護福祉士が実施できる対応を理解する。（講義）</li> </ul> <p>○講義と演習④（5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援時の急変時の判断とその対応などを学び、判断できるようになる。（講義）</li> <li>・状態把握が出来、観察・記録・情報共有のポイントを明確にし、実施できるようになる。（講義）</li> <li>・他職種（医師、看護師等）との連携の情報共有のポイントについてグループワークをする。（演習）</li> </ul> <p>○事後学習⑤（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を受講して急変時等の病態に応じたその対応のポイントをレポート用紙A4に800字程度にまとめる。</li> </ul>
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■集合研修</li> <li>■課題学習</li> </ul>
研修時間	30時間（集合研修 20時間、課題学習 10時間）
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。（レポート課題なし）1日のプログラムのうち、始めの30分を超える遅刻、終わりの30分を超える早退であって120分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。</p> <p>○筆記試験は50問とし、A～C評価（100点満点中60点以上）を合格とする。D評価（59点以下）の場合は、再試験を行い、A～C評価になったものが「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ」が受講できる。やむを得ない事情による遅刻、早退については30分を</p>

	<p>上限として認める。やむを得ない事情による欠席があった場合には別途試験日を設定する。再試験は複数回の受験を可能とする。</p> <p>○評価基準は、別紙の通り。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</li> <li>・修士課程を修了していることが望ましい</li> <li>・在宅支援の経験がある医師または看護師が望ましい</li> </ul> <p>医師：大学講師以上または学会認定専門医以上が望ましい  看護師：大学講師以上または「認定看護師」以上の資格を所持していることが望ましい</p>
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認定介護福祉士概論」を修了していること</li> <li>・「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ」を修了していること</li> </ul>
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②筆記試験（50問）により行う。100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価とする。A～C（100点満点中60点以上）を修了とする。</p>
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	<p>40名 講義・演習とも講師で行う。</p> <p>講師の指示のもと演習時にファシリテーターを配置する。</p>
開催場所（都道府県）	<p>京都社会福祉会館  （京都府京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町 519 番地）</p>

## (別紙3) 認定介護福祉士研修認証

## 認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 31 年 3 月 15 日
	② 平成 31 年 3 月 16 日
開催場所 (会場)	① 京都社会福祉会館
	② 京都社会福祉会館
	(京都市上京区猪熊通丸太町下る仲之町 519 番地)
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>長谷川 美智子氏 (師長・老人看護専門看護師)</p> <p>担当する講義等 疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ</p> <p>〈学歴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2000 年 4 月 京都府立医科大学医療技術短期大学部看護学科入学</li> <li>● 2003 年 3 月 同卒業</li> <li>● 2003 年 4 月 神戸市看護大学看護学部編入学</li> <li>● 2005 年 3 月 同卒業</li> <li>● 2010 年 4 月 神戸市看護大学大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程実践看護学領域老人看護学分野入学</li> <li>● 2012 年 3 月 同修了</li> <li>● 2005 年 4 月 京都保健会 京都民医連中央病院就職 (～現在に至る)</li> </ul> <p>〈資格〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2003 年 4 月 看護師免許 1207981</li> <li>● 2005 年 4 月 保健師免許 131255</li> <li>● 2012 年 12 月 老人看護専門看護師資格</li> </ul> <p>〈職歴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2015 年 3 月 看護部 師長 所属病院の回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟において介護職と現場で働いた経験があり、現在も教育にあたっている。</li> </ul> <p>〈研修等の講師歴〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2013 年 4 月 日本認知症ケア学会 関西 1 地域部会委員 (～現在に至る)</li> <li>● 2015 年 3 月 公益社団法人京都府看護協会認知症看護研修委員会委員 (～現在に至る)</li> </ul> <p>・平成 28 年度第 1 回地域包括圏地域ケア会議 / 2016 年 7 月 29 日 / テーマ: 認知症の方の世界を理解する～日常ケアの場面で活かせる認知症の方への声のかけ方</p>

- ・平成 29 年日本看護協会 急性期病院で治療を受ける高齢者への効果的な看護ケア／2017 年 7 月 25 日／入院加療を受ける高齢者への効果的なケアの方法
- ・平成 28～30 年度 京都市老人福祉施設協議会 施設看取り専門研修／加齢に伴う身体的変化・看取り期の身体的変化
- ・30 年度 京都府介護福祉士会研修／2018 年 9 月 9 日／最期に寄り添う介護職の看とりケア 等、多数。

〈学会発表〉

- ・2012 年 7 月 高齢患者の複雑で見えない〈難聴〉の障壁を越える看護実践の探究：急性期病院の一般病棟におけるマイクロ・エスノグラフィー，日本老年看護学会第 17 回学術集会，2012.
- 2016 年 7 月 高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法-老年症候群・BPSD に伴う高齢者の苦痛を緩和する実践力の育成，日本老年看護学会第 21 回学術集会，2016.
- 2017 年 4 月 Educational Support Methods of Enhancing Nursing Care Competencies for Newly Employed Nurses in Elderly Care Facilities Enhancement of Competencies for Geriatric Syndrome of the Elderly with Dementia, 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International. 2017.
- 2017 年 6 月 高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法－BPSD として表出された苦痛を緩和する看護実践能力の育成，日本老年看護学会第 22 回学術集会，2017.
- 2017 年 10 月 高齢者ケア施設の新任期の看護師に強化が必要な看護実践能力を育成する教育支援方法－高齢者の安楽で安寧な看取りに向けた看護実践能力の育成，第 2 回神戸看護学会学術集会，2017.
- 2016 年 9 月 急性期病院における認知症サポートナース養成研修の評価 研修 1 年後のアクションプラン実施成果と課題，第 47 回日本看護学会看護管理学術集会，2016.（共同）

〈著書〉

- 【あなたの病院はどうしますか？ 2014 年診療報酬改定が迫る「病床機能選択」「早期在宅復帰」のインパクト】 京都民医連中央病院の取り組み 「患者の生活を支える視点」を重視した病棟・地域再編 在宅との連携を基盤に、質の高い在宅復帰支援を目指す。看護管理, 24(8), p756-762, 2014. 医学書院.
- 【非がん患者の緩和ケア】 (Part2) 疾患別緩和ケアの



	<p>実際 認知症. 看護技術, 61(7), p704-711. 2015. メヂカルフレンド社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 【エンド・オブ・ライフを見据えた”高齢者看護の”キホン” 100-看護管理者と創る超高齢社会に求められる看護】症状マネジメント 排尿障害(尿閉・尿失禁・尿路感染), 排尿ケアで覚えておきたい大切なこと, 看護, 67(4), p50, 2015. 日本看護協会出版会.</li> <li>● 【第32回国際アルツハイマー病協会(ADI)国際会議～認知症:ともに新しい時代へ】, 18(2), p 49-53, 2017. 日総研</li> <li>● 【特集 1 猛暑を乗り越える! 認知症の人の夏場の健康管理】, 認知症ケア, 19(2), p2-9, 2018. 日総研</li> <li>● 【退院後の生活を見据えた高齢者ケア】第1章-4 高齢者ケアにおける倫理的課題と対応, 63(12), p23-28, 2017, メヂカルフレンド社</li> <li>● 第1部 看取りケアのキホン(基本編) /Ⅲ. 疾患別にみる看取り期の特性, 看取りケア プラクティス×エビデンス, 宮下光令, 林るり子(編), p69-71. 南江堂. 高齢者看護の実践能力を育てる～高齢者ケア施設の看護をベースにして, 第2章 2-3, 2-4, 5-2, 坪井桂子(編), 2018, 日本看護協会出版会.</li> </ul>
(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(常勤:1名(予定)、非常勤:6名) 実行委員会事務局(担当事務局員、非常勤2名) 研修実行委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	京都介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	柏本 英子
機構問合せ先部署	京都介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	岡本 匡弘
機構問合せ先電話番号/FAX	075-801-8060 / 075-801-8083
機構問合せ先 e-mailアドレス	kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp
受講問合せ先部署	京都介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	齊藤 晶子
受講問合せ先電話番号/FAX	075-801-8060 / 075-801-8063
受講問合せ先 e-mailアドレス	kyoto-kaigofukushi@trust.ocn.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	京都介護福祉士会事務局

受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙媒体及びデータによる台帳管理</li> <li>○データ保存期間は最低 10 年間とし、その後は、紙媒体で保管する。</li> <li>○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。</li> </ul>
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	柏本 英子（会長）
管理担当者氏名	齊藤 晶子（担当の事務局員）